

連結比較損益計算書(要約)

(単位:百万円)

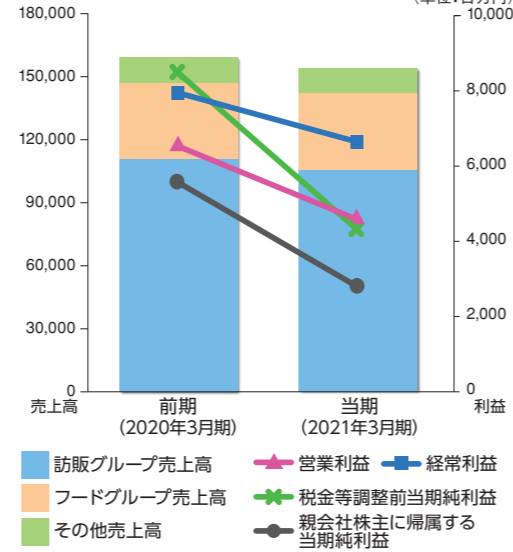
	前期 (2020年3月期)	当期 (2021年3月期)	増減
売上高	159,102	153,770	△5,332
営業利益	6,577	4,651	△1,926
経常利益	7,929	6,633	△1,295
税金等調整前当期純利益	8,471	4,315	△4,155
親会社株主に帰属する当期純利益	5,591	2,821	△2,769

POINT

- 2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症拡大(以下、「コロナ」)の影響が大きく、減収減益となった
- 訪販グループは、各事業がコロナ影響を受け減収減益。しかしながら、高まる衛生ニーズに対応して、素材や吸着剤等のウイルス減少効果の研究開発に取り組み、第三者機関の確認、認証が得られた商品の販売に注力すると共に、衛生関連商品及び複数の役務提供サービスを組み合わせた衛生清掃パック等は好調推移
- フードグループの主力事業であるミスタードーナツは、コロナ影響を大きく受けたものの、商品戦略が奏功。イートイン売上が減少したものの、テイクアウトが大幅に増加し増収。しかしながら、カフェテリア形式店舗の全ショーケースを扉付きに変更した費用を計上し減益
- 持分法適用関連会社である株式会社ナックの収益が改善したことで、営業外収益は改善
- 新型コロナウイルス感染症に係る見舞金支給等により親会社株主に帰属する当期純利益は大幅に減少

売上高および利益の前期比較

(単位:百万円)



連結比較貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

	前期 (2020年3月期)	当期 (2021年3月期)	増減
流動資産	62,195	69,239	1 7,044
固定資産	122,963	119,159	△3,803
有形固定資産	50,360	50,152	△208
無形固定資産	10,922	9,635	△1,286
投資その他の資産	61,680	59,372	2 △2,308
資産合計	185,158	188,399	3,240

1 流動資産

- 「現金及び預金」が5,297百万円減少
- 「有価証券」が9,419百万円増加
- 「その他」(電子マネー等未収分等)が1,925百万円増加

2 投資その他の資産

- 「投資有価証券」が474百万円減少
- 「繰延税金資産」が1,890百万円減少

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

	前期 (2020年3月期)	当期 (2021年3月期)	増減
流動負債	34,392	34,587	195
固定負債	8,735	7,974	3 △760
負債合計	43,127	42,562	△564
株主資本	134,482	134,768	285
その他の包括利益累計額	7,256	10,740	3,483
新株予約権	50	60	9
非支配株主持分	241	268	26
純資産合計	142,031	145,836	4 3,805
負債純資産合計	185,158	188,399	3,240

3 固定負債

- 「退職給付に係る負債」が749百万円減少

4 純資産合計

- 「その他有価証券評価差額金」が2,806百万円増加
- 「退職給付に係る調整累計額」が698百万円増加

セグメント毎の状況

訪販グループ

(単位:百万円)

	前期	当期	増減
外部顧客への売上高	110,379	104,744	△5,635
セグメント間の内部売上高	656	595	△60
計	111,036	105,339	△5,696

POINT

- 家庭向けダストコントロール商品の売上は減少
  - ・第1四半期に新規のお客様を獲得する積極的な営業活動が実施できなかったことや既存のお客様の交換時期の延期が発生したこと等により売上高は減少
  - ・感染リスクの低減等衛生意識の高まりに伴い除菌・抗菌ニーズは増しており、「TUZUKU持続除菌洗剤」等、除菌関連商品の売上は増加
- 事業所向けのダストコントロール商品の売上も減少
  - ・第1四半期に緊急事態宣言発出に伴う自治体からの休業要請に応じたお客様店舗の休店によるマット等の商品交換の中止、延期が発生し、売上高は前期を下回った
  - ・空間清浄機「クリア空感」、手指消毒剤「ウエルパスマイルド」等の衛生関連商品の売上は増加
- ケアサービスの売上も減少
  - ・お客様店舗の休店や個人の外出自粛等により定期サービスの一時休止が第1四半期に多く発生したことで全体では減収
  - ・緊急事態宣言解除後は定期サービスの一時休止も減少する等、コロナ影響は徐々に沈静化すると共に、除菌関連サービスは好調に推移
- レントオール事業はイベントのキャンセル等が相次ぎ、大幅な減収

フードグループ

(単位:百万円)

	前期	当期	増減
外部顧客への売上高	36,247	36,551	303
セグメント間の内部売上高	15	9	△6
計	36,263	36,561	297

POINT

- <ミスタードーナツ>
  - イートインお客様売上減少
    - ・コロナによる一時的な休店や営業時間の短縮、ソーシャルディスタンス確保のために席数を減少させたことの影響は大きく、お客様数が大幅に減少し、イートインお客様売上は減少
  - テイクアウトお客様売上増加
    - ・コロナ禍で持ち帰り需要が高まり客単価が上昇
    - ・50周年アンバサダーに菅田将暉さんを起用。数量限定のスペシャルテイクアウトボックスは売上増加に寄与
- “miso meets”季節限定商品好調
  - ・第4四半期「ピエール マルコリーニ コレクション」は、大きな反響を呼び、売上増加に大きく寄与
  - ・「ポケットモンスター」とのコラボ商品を様々なグッズと併せてクリスマスシーズンに展開した「ミソでラッキークリスマスチョココレクション」等も大変な好評を博す

●定番商品ブラッシュアップ

- ・当期も「ハニーディップ」「エンゼルクリーム」等、定番のドーナツのブラッシュアップに取り組むと同時に、価格改定を実施、客単価が上昇

<その他のフード事業>

- 「ペーカリーファクトリー」は増収となったものの「パイフェイス」「かつアンドかつ」は、コロナの影響を受け、減収
- 「ザ・シフォン&スプーン」は2020年7月に全店舗を閉鎖

その他

(単位:百万円)

	前期	当期	増減
外部顧客への売上高	12,475	12,474	△0
セグメント間の内部売上高	2,097	2,578	480
計	14,572	15,053	480

POINT

- リース及び保険代理業のダスキン共益株式会社、病院施設マネジメントサービスの株式会社ダスキンヘルスケアは共に増収
- 海外で展開している事業はいずれもコロナの影響大
  - 外部顧客に対する売上は減少
  - しかしながら、国内向けマスク売上を計上したことで海外事業の総売上は増加

株価推移(週足) 2020年10月~2021年3月

※最終週のみ3月29日~31日の集計を反映

